

こくとつよくするには、ものとしき

国土を自然災害から守るためには、地震に強くすることや水害をなくすためのダムやていぼうといったことは必要ですが、最も大事なことは、日本列島では自然災害がさげられないこととそれに関心を持った暮らし方をしていくことが大切なことです。

えい続することが大事な防災への関心

自然災害は、いつ来るかわからないことから、防災への関心は続けていくことが大切です。続けるといっても、むずかしいことでなく、地域を災害の目で見るとかよそで起きたことを地域で考え直す習慣を持つことです。

てわたしたい、次の世代に安全な暮らし

地域でも学校でも、災害があった時にどうすることが良いのかについて、皆で相談したり話し合っておくことで、受けつがれていくこととなります。昔は、地域ではお祭りなどの時に、いろいろな話やしきたりなどを子供から大人までいっしょに聞いたものだそうです。

あとのまつの知らなかった、想定外

大きな災害の原因には自然現象のほかに、てきせつでない土地の利用があります。昔、災害があったところに住宅地や建物があつたり、災害が起きる

危険きけんがありながらそれを無視むししたようなことによって起きておいることがあります。
つまり、災害さいがいにはかならず、なにかの理由りゆうがあります。